

株式会社ジェイコム湘南・神奈川 小田原局

2019 年度 放送番組審議会 議事録

2019 年度の放送番組審議会は、2020 年 3 月 11 日(水)にジェイコム湘南・神奈川 小田原局で開催された。

＜放送番組審議会委員＞ (五十音順)

—ご出席—

秋谷 勉 様 瀬戸 淳子 様 山岡 弘 様 芳澤 一夫 様

—ご欠席—

鳥海 義文 様 宮川 萬寿美 様 柳下 登 様 安多 寿子 様

事業者側から局の現況、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)、について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(芳澤会長による進行)

◆ど・ろーかるアプリ、SNS 活用について

委員 若い世代の人は関心ある情報は携帯等で入手する時代。「ど・ろーかる」ではデイリーニュースを配信しているが、その他の情報を配信することはできないか。例えば、地元企業では、職安で応募がなかった求人情報を携帯で入手できる方法で出したところ、多くの応募があり採用できたケースがあった。県内で求人情報を出している企業と連携し情報を出すことで、より身近に感じてもらえるのではないか。アプリをビジネスモデルにしていくことで、「ど・ろーかる」も次の段階につながると思う。

委員 ある一定の地域内で情報発信することにより「ど・ろーかる」は発展するのではないか。また、地域でのつながりを持てる方法を展開することで、若い人にアピールできると思う。

事業者 現在、ど・ろーかるアプリは無料配信となっている。ビジネスモデルとしての成長が必要と考えている。また SNS 活用として今後、小田原局でフェイスブックを立ち上げ、情報発信していく。

◆防災情報について

委員 防災面からの定点カメラの設置はあるのか。台風の際など、社員が撮影に行くの

は危険が伴うと思う。河川の増水などは特に市民が知りたいので、県の河川カメラ映像を使えるようにできると良いのでは。

事業者 小田原局では局庁舎屋上設置の早川河口付近の海岸を撮影しているカメラ、小田原城、お堀端通りなど撮影している定点カメラ4台がある。今後、河川カメラの活用など進めていきたいと考えている。

◆地域情報発信について

委員 テレビ、ラジオ、スマホでの配信などミックスドメディアの時代となり、番組の作り方が変わってきている。新型コロナウイルスの影響で、学校が休校となり子どもたちが家でテレビを見る機会が多くなっている。学習の一助となるような子供向けの動画を配信できると良い。

事業者 明日から午前中の2回、子供向けのアニメを編成して放送することが決まった。

委員 学校は休校だが子どもたちは海岸など外で元気に遊んでいるようだ。元気な子供たちの姿が映ると、勇気や元気をもらえるとと思う。

事業者 日々のデイリーニュースの取材で子どもたちの様子を取り上げられるようにしたい。

委員 J:COMテレビでは全国区の民放番組とオーバーラップするような番組を作っているようだが、もっとローカルに特化した番組制作をした方が良いのではないか。

事業者 J:COMテレビとJ:COMチャンネルとは番組内容の位置づけが違う。J:COMチャンネルはローカルに徹している。ただローカル情報を全国編成のJ:COMテレビで放送することで、「その地域に行ってみよう」と思ってもらえるような番組作りをしていきたい。

◆オリンピック放送について

委員 オリンピック放送に関して、現状、決まっていることはあるのか。

事業者 これまでリオデジャネイロとピョンチャンオリンピックで、NHK、民放が放送しない競技を放送してきた実績がある。東京オリンピック・パラリンピックについても視聴者に楽しんでもらえるよう交渉を続けている。オリンピック関連は権利関係が厳しいため、どのような情報をお届けできるか交渉中だが、放送とは別にイベントなども受

注し実施していきたいと考えているので、楽しんでいただければと思う。

事業者 貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。皆様からのご意見を生かして、より良い番組作りに努めます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

以上